

議会

No.265



令和6年度

議会国内視察研修

7月3日～5日、兵庫県養父市、岡山県奈義町・西粟倉村などを視察しました。今年度は関達夫議員・湯本直木議員の報告書を抜粋・編集し、掲載します。なお、報告書は、議会事務局にありますので、どなたでも閲覧できます。

【国家戦略特区の兵庫県

養父市を視察して】

関 達夫

養父市は兵庫県の北部に位置しています。この地域の歴史は古く、文化財、観光名所（高原・滝など）も多く、以前は製糸業が栄え、今は但馬牛の産地でもあります。

瀬戸内海と山陰地域を結ぶ道路と、JR山陰本線が走り、京阪神との利便性が高い地域です。

平成16年に4町が合併し、養父市となりました。3月時点の人口は2万1200人ほどで、高齢化率は40%。内閣府の特区事務局が市役所内にあります。



養父市役所前にて

「とった行動」

養父市においても、人口減少、高齢化、離農による農業の担い手不足により、地域の独自性、特徴である農地（農業・農村）が守れなくなり、何をすべきか、何ができるのか、養父市自ら施策を考え行うべきと「特区制度」に注目。平成26年「中山間農業改革特区」として国家戦略特区の区域指定を受けました。農業の活性化につながる改革メニューとして

- ① 農業委員会と市との事務分担（農地法による権利移転など手続きの迅速化）

② 企業による農地取得の特例

（企業の農業参入を促進）

③ 農用地区内に農家レストラン

「村ん中」を設置可とした。

④ 過疎地域での家用自動車の

活動拡大（家用有償旅客運送事業「やぶくる」の名で観光客も利用している。）

等10項目の提案が承認されました。

養父市には、以前より多様な企業、会社、工場が存在し、商工業と農業を兼業している市民が多く、異業種でありながら協力的なことが発展の基礎にあったと思います。市長を先頭に、職員の仕事への取組み、発想力の高さと熱量を感じました。中山間地域を皆で元気にしています。

特区制度を活用し

活躍する2社を視察

◆株式会社Amnak（アムナック）（本社・山陽Amnak。マンション、ビルの内外装の工事会社）平成27年10月設立。

15年前に人口減少の中、本業以外の仕事を探し、キノコ栽培をしようとして松本市を訪ねたこともあったそうです。

市が国家戦略特区に指定され、農業しやすい制度、環境が整っている地域の特性から米作りに取り組み、平成28年、3町歩（3ha）（ヘクター）に酒米「山田錦」を栽培。スマート農業の導入により、作業の省力化、圃場管理情報の効率化を進め、酒米栽培を通じ、営農効率の悪い中山間地を運営するモデルと言えます。加工品として日本酒、餅を販売しています。

◆ナカバヤシ株式会社兵庫工場

あの「ナカバヤシふえるアルバム」の会社で、兵庫工場は雑誌の合冊製本、書籍・古文書修復の製本事業の専門工場です。

仕事の性質上、4月～6月、10月～12月に閑散期となり、社員雇用維持のため、ニンニク栽培に取り組み、見事、仕事の二刀流を実現。平成29年は0.7ha、今は3haほど。特区事業のため0.3haは農地を購入、他は借地。中山間の遊休農地の活用、農家と連携し栽培したニンニクを買入れ、製品にする工場設備を共用し、地域ぐるみの取組みとしています。

ニンニク入りの菓子等を商品化し、販売もしています。

議会に対するご意見
をお聞かせください。

電話

☎0269(82)3111
(内線170)

E-mail

gikai@vill.kijimadaira.lg.jp

発行：木島平村議会
編集：議会だより編集委員会

【岡山県西粟倉村を視察して】

湯本直木

◆どこにあるの

西粟倉村は岡山県の北東部で兵庫県に隣接しています。

人口は1472人、木島平村の3分の1程度です。面積は57.97㎢で木島平村の3分の2程度です。

◆何をしたの

近年移住者が100人以上、起業した会社が13社、売上は総額8億円増、雇用は120名増えているという、全国でも指折りの活性化している自治体のひとつです。

◆きっかけは

平成16年（2004年）に周辺自治体との合併せず、自主自立の決意をしました。

事の始まりは、平成20年（2008年）に前村長の道上正寿氏が、50年かけて村を作り直そうと「百年の森林構想」を旗揚げして、林業の6次化を目指したことです。というのも、西粟倉村は面積の9割が森林で、村の有効な資源の活用を考えたからです。

◆出会い

ここにキーマンが出現しました。㈱アマミタの熊野英介氏です。同氏は、「第一次産業が元気になれば

中山間地域は活性化する」「大量生産大量消費の時代はいずれ終わる」「関係性とストーリーを大事にした産業の創出」を掲げ、前村長の道上氏と共に「百年の森林構想」を実行に移していくことになりました。

◆ポイントは

「百年の森林構想」のポイントは50年先のビジョンです。

- ・百年の森林に囲まれた上質な田舎づくり
- ・衰退していく一次産業にフォーカス
- ・自治体のチャレンジ

自治体は森林施業（補助事業）を活性化させ、民間（西粟倉森の学校）は林業の6次化・付加価値の創出を目指して事業の展開を図っていくことに。

◆これを実現するために

ローカルベンチャー（LV）※事業の展開をしました。

ローカルベンチャーを増殖させるために「100億円の企業誘致より1億円×100社の誘致」をコンセプトに、仕事・雇用の創出に力を入れました。これにより平成18年（2006年）に始まったLVの増殖は、これまでの18年間に62もの事業が生まれました。

※ローカルベンチャーとは：様々な地域課題の解決と持続可能な地域社会づくりのために起業したベンチャー企業

◆地域おこし協力隊の活用は

今までに、起業型では5人、行政連携型では12人、企業研修型では35人が起業しています。

◆村の対応は

前出の㈱アマミタの熊野英介氏の関連企業が、前村長の信念を持った熱い思いを受け継ぎながら、起業する協力隊を支援していく仕組みをつくりました。起業時の補助金の支出は村からはなく、協力隊制度で適用しています。

◆今後はどうなるの

ローカルベンチャー事業を発展させた次の事業「TAKIBIプログラム」として

- ① 観光の活性化
- ② 高齢者の生涯現役
- ③ 電力会社の設立
- ④ 在宅医療企業の招聘
- ⑤ 生物多様性

「村に生息する生物の多様性戦略」の先進モデル地域へ

⑥ 住宅不足の解消やSDGsを踏まえた未来都市計画など、今までにないさまざまな事業展開を計画しています。村と

起業会社はそれぞれの立場をわきまえ、立ち位置がしっかりして、程よいパワーバランスを感じました。

◆ところで

やはり一番感じたことは、首長が自分の政治信念、熱い思い、強いリーダーシップをしつかり持つて行政運営の舵取りをすることが大事だということでした。



西粟倉村役場にて